

教区だより

No. 329

2016 3

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌



特集

「同和協議会現地学習会」

リバティおおさか（大阪人権博物館）を訪ねて
—部落差別問題の現状と課題—

3

同和協議会では、昨年12月に大阪に出向き現地学習会を行いました。
朝治武館長の講義を中心に、研修の様子や博物館の展示などを特集します。

ざっ ぽう
雑 宝



人生の中で出遇った大切な言葉。
その言葉がその人に何を教え、そ
その人をどのように歩ませたのか、
思いを綴っていただきます。

【筆者】因伯組 真光寺 衆徒

ふじはら のぶあき
藤原 信証 氏

4

…私は、予想外の出来事にびっくりす
るとともに、それまでの自分自身の行い
が大変恥ずべきことだったと理解した。
…（本文より）

連載

《最終回》

親鸞 —時代を生きる—

たいら まさゆき
平 雅行 氏

5

今という時代／出会いの窓

6

京都教区教化レポート（青少幼年研修小委員会）

7

■ ■ ■ 京都教区の動き ■ ■ ■

誕生児初参り式サポート説明会

二〇一五年十二月十六日(水)、教区御遠忌記念事業「誕生児初参り式サポート」へ応募された寺院三ヶ寺に対する説明会が開かれました。応募寺院は山城第一組隨専寺、山城第二組願隆寺、因伯組緑浄寺の三ヶ寺。

初参り式サポートははじめての事業であり、スタッフも応募寺院もとにかく手さぐりの事業であるので、すでに初参り式を行なっておられるお寺のビデオを参考に説明しました。

教区ではすでに子ども会サポート事業があり、実働中なのですが、この事業はさらにお寺と子ども、親、ひいては地域との関係の構築を推し進める事業だと思っています。

そして、誕生された子どもさんをきつかけに、お寺と親や家族とのつながりが出来る事で、将来のお寺の子ども会へとつながっていくことが願われています。

(青少年研修小委員会主査 三品 正親)

准堂衆会公開講座

二〇一六年一月十八日(月)午後四時より、京都教区会館大講堂にて、京都教区准堂衆会主催の公開講座を開催いたしました。

今回の講座は、山口昭彦先生(本山内事部

書記)をご講師として、「袍ほうも・七條袈裟の歴史と着装について」の講義並びに実際の袍・七條袈裟の着装をご指導いただきました。当日は、寒中にも関わらず多数の方にご参加をいただき、会員といたしましても、実りある公開講座となりました。

(京都教区准堂衆会会員 相馬 基)

京都教区推進員協議会 役職者一泊研修会

京都教区推進員協議会「役職者一泊研修会」を、活動目標の一つである山陰地方で去る一月二十六日(火)～二十七日(水)に、島根県松江市の中心である松江城とじみで有名な宍道湖に囲まれたニューアーバンホテルを会場として開催しました。

開催趣旨として、京都教区は一府五県という非常に広範囲にまたがっており、同じ教区に属しながら互いに交流し課題を共有することが難しい状況にあり、今回松江市でお互いが「御同朋、



御同行」として出遇うことを願いとして開催しました。

講師に藤島建樹氏ふじしまたけき(大谷大学名誉教授・出雲組圓浄寺住職)をお迎えし、「歴史を信仰の糧として」の講題で、インドでの釈尊誕生から、中国・日本に仏教が入り、後に遣唐使によって経典等が日本に伝わったことを教わりました。

(京都教区推進員協議会副会長 加藤 勉)

福島子どもたち一時避難受け入れの会 公開研修会

一月三十日(土)、今津東コミュニティセンターにおいて、講師に木ノ下秀俊氏(真宗大谷派仙台教務所現地災害救援本部)をお迎えし、「福島の声を聞く研修会」が開催された。

木ノ下氏は、震災から五年を迎える福島の現状として、様々な形で住民の帰還事業が推進される中、「復興」の名の下に住民同士の分断と対立が生まれていること、小児甲状腺がんの増加による不安などが話され、参加者との間で意見交換がなされた。本会は三月二十六日～四月二日の八日間、大谷大学湖西キャンパスにて保養事業を実施予定。

(福島子どもたちの一時避難受け入れの会

事務局員 藤川 秀行)

——特集「同和協議会現地学習会」——

リバイティおおさか（大阪人権博物館）を訪ねて
——部落差別問題の現状と課題——

二〇一五年十二月十八日（金）午後一時、十二名の参加者がJR環状線芦原橋駅南改札出口に集まった（博物館からさらに三名合流）。暖かい日が続いていたのが一変、この日は真冬の寒さ。市内とは思えない閑散とした駅から、車の通りの少ない新なにわ筋を、右に大きな市営団地を見ながら南へ歩くこと十分、「リバイティおおさか」に到着した。団地に沿って太鼓を叩く人々の像が点在する。このあたりは太鼓の街だ。団地はほぼ満室なのに全く活気が感じられない。

一行は受付を済ませ講義室へ。朝治武館長のお話を一時間拝聴した。

当博物館は今年三十周年を迎える。本来ならお祝いムードで満ちていなければならないのに暗い。それも橋下徹市長が原因だ。図らずもこの日は橋下市長退任の日。朝治館長は最初の十五分間、橋下市長批判を展開した。

二〇一三年度から、当館は大阪市・大阪府からの補助金を打ち切られ、二〇一五年七月二十三日、ついに大阪市から建物の撤去と土地の明け渡し、さらに、裁判終了までの間、毎月

二百五十万円の賃料相当額を、遅延損害金として支払うことを求められ、現在大阪地方裁判所に提訴されているのだ。どう聴いても、当館の存続は難しい。

その後、「部落問題の現在と過去——部落差別とは何か——」との講座でお話を伺った。

朝治館長が同和問題に関わったのは高校のとき、同和对策事業からの奨学金の存在を聞かされ、自分が部落の人間であることを知ってからだと言う。一九六九年、同和对策事業特別措置法が施行され、七十年代の高度経済成長とも相まって、部落解放運動が高揚する時代を迎えた。そんな中、一九八五年十二月四日、当館は開館した。

朝治館長は振り返る。六十年代・七十年代横行していた、就職差別・教育差別・結婚差別といった伝統的部落差別も、九十年代には鳴りを静める。水平社発足当時、部落外の人との結婚は三%だったのが、恋愛結婚等が原因で、現在は六〇%から七〇%にまでになっているという。もはや多数派だ。

やがて、国策としての同和对策事業も

二〇〇二年には終焉を迎えた。もちろん部落差別は無くなったのではない。今は、インターネットを利用した差別等へと変貌している。そんな中、今年吹き荒れた、安全保障関連法案に反対する若者たちのデモに館長は注目する。彼らは、解放同盟のような団体を持たず、インターネットで繋がって自然発生する。解放運動もそういう新しい時代に入ったのだと。そして、最後にこう結ばれた。個々が差別しないという思いを持つ。解放運動は、糾弾という団体運動から、こうした個人への啓発運動へと変わって行くことが必要だと。

ここに私たち真宗門徒の活躍する場が開かれた。差別からの解放は阿弥陀如来の本願である。真宗門徒は差別をしない。差別をしないのが真宗門徒である。

講義の後には館内を見学した。展示は私が思っていたものとは全く異なっていた。もちろん部落差別を取り上げたコーナーはあるが、それも僅かなスペース。多くが薬害・公害、性差別・DV・児童虐待、在日コリアン・ウチナイン・チュ・アイヌ、ハンセン病・障害者・ホームレス、さらには、いじめにまで幅広く差別問題が取り上げられ、最後は夢と題して子供たちに将来の職業が紹介されている。ここにも大阪市の影響が強く感じられた。

（同和協議会運営委員 村上 宗博）

雑宝



因伯組 真光寺 衆徒

藤原 信証

「目の前の方をただの人と思うなよ」

同朋会館の法話室に掲示されている言葉である。高橋卯平さんというご門徒さんの言葉で、元々はお父様の遺言だそうだ。「お前のために仏様が身を変えて現れてくださったっている」という意味で、その言葉を大切に、その通りに生きられたそうだ。

私は同朋会館の嘱託補導として、この数年、同朋会館に出入りする機会が増えた。初めてこの言葉を目にした時は、何か命令されているように感じ、少し違和感を感じた程度で、その後この言葉を特別意識することはなかった。どのような思いが詰まっている言葉かも、その時は知らなかった。

そんな中、ある奉仕団を補導として担当することになった。

ご住職と年配のご門徒以外に二十代の僧侶もおられる団体だった。最初に一人ずつ自己紹介をしてもらったのだが、その二十代の僧侶が言

われたのが、「うーん：特に無いです」であった。

奉仕団として来られる方は年配の方が多く、中には「最初で最後の上山」として大変重く受け止めて来られる方が多い。

その団体も初めて上山される方が何名かおられる中で、その発言である。

気の短い私は、その時点でその方を軽蔑してしまっていた。更にその後、その方は教導の講義中、堂々と寝ていたのだ。

ここで私はある決意をした。この期間中、その方と目を合わせないでいよう、と。その方の存在を消し去ったのだ。

翌日、清掃奉仕の時間もその方は「自分は写真撮影担当だ」と、清掃に加わらなかった。ただ前日の決意通り、私はその方の行動などどうも思わないようににした。正確に言うと、意識して無視し通したのだ。

そして全日程が終わったのだが、その団体との別れ際、あるうことか、その方が私に向かって笑顔で話しかけてきたのだ。

「同朋会館って思っていたより気楽ですね。もっと堅苦しい所かと思ってました。」

私は、予想外の出来事にびっくりするともに、それまでの自分自身の行いが大変恥ずべきことだったと理解した。そして、法話室に掲げられている、それまでも思わなかった、冒頭の言葉が脳裏に浮かび、その後、頭の中を駆け巡った。

その方が奉仕団の一員として同朋会館に来られたことは事実であり、そこには私が知らない様々な思いがあったに違いない。そこに触れようとせず、その方の振る舞いを自分勝手に解釈し、話し合うことなく、存在を消し去っていた。相手も間違いなくその雰囲気を感じ取っていたはずだ。そんな自分に対して、笑顔で話しかけてきてくれたのだ。

動揺してしまった私は軽く返事するのが精一杯で、そのまま別れてしまった。

最後にその方から笑顔で話しかけられたことは、私にとって何よりの救いだ。補導として、僧侶として、また、一人間として、自分と向き合うきっかけとなったからだ。

そして、話しかけられなければ、高橋卯平さんの言葉にも出逢えていなかった。

「目の前の方をただの人と思うなよ」
私が今一番大切にしている言葉である。

親鸞 —時代を生きる—

最終回



平 雅行

(大阪大学名誉教授 / 京都学園大学教授)

朴な善意を、自力の慈悲と否定してしまつてよいのでしょうか。でも、親鸞の歩みをたどると、別のことが見えてきます。

一二三二年(寛喜三) 四月、親鸞は風邪をこじらせました。そして高熱に苦しみながら、夢の中で一心に無量寿経を読誦(とくじゆ)しています。「念仏を差し措(お)いて、自分は何をしているのか」、そう反省した親鸞は、自力の心の残存に気づきます。信心が決定(けつじよう)していたはずの親鸞に、いったい何があったのでしょうか。

実はこの時、日本は未曾有(みぜう)の飢饉(ききん)にあえいでいました。寛喜の大飢饉です。この前年、七月に霜がおり雪が積もつて、真冬のような寒波に日本中がふるえあがりました。穀物は壊滅。飢饉・疫病が蔓延(まんえん)して、京都も鎌倉も餓死者であふれています。こうして飢饉がピークを迎えたその時、親鸞は夢の中で無量寿経を一心に読誦していたのです。「飢饉を何とかしてほしい」、せつば詰まったその想いが、親鸞を読経に走らせました。

親鸞のことです。できることは何でもしたはずですが。でも、寛喜の大飢饉は、個人の善意で解決できるような生やさしいものではありません。鎌倉幕府ですら、どうにもできな

い。その中で親鸞はもたえ苦しみます。

極楽往生のためには、他力信心が絶対です。でも今、民衆が求めているのは極楽ではない。食べ物です。親鸞には何もできない。それどころか、かける言葉すらみつからない。自力の慈悲の限界に悩み苦しんだ挙げ句、「まはさてあらん(これからは、そうしよう)」、親鸞は覚悟を決めます。浄土の慈悲です。

確かに念仏では飢饉は救えません。でも、何によつても飢饉は救えないのです。となれば、せめて彼らの心に寄りそいながら、一緒に念仏を唱えていこう。それが本当の慈悲なのだ……。『歎異抄』第四条はこうして生まれました。

親鸞の信心は弾圧には屈しませんでした。でも、民衆の苦難を前にしたとき、親鸞の心は乱れます。信心がゆらぎます。この柔らかな感受性、これが親鸞なのです。聖道と浄土の二つの慈悲。親鸞は生涯を通して、この二つの慈悲のはざまに悩み苦しみました。そして私は、その思い悩む姿こそ、本当の慈悲の在り方だと思えます。親鸞はその生涯を通して、私たちに本当の慈悲の姿を指し示してくれている、私はそのように思うのです。

二年間のご愛読、ありがとうございました。

『歎異抄』第四条に聖道(しょうどう)の慈悲の話がみえます。困っている人がいれば何とか助けてあげたいと思う、これが聖道の慈悲です。でも残念なことに、思い通りには助けられない。限界があります。となれば、往生成仏して仏のパワーを身につけた上で、自在に人びとを救済すべきではないか。遠回りなようにみえるが、むしろ浄土門の慈悲こそ本物の慈悲心なのだ、と親鸞は語っています。

正直なところ、私はこの話がうまく理解できませんでした。小さな力であっても、自分のできる範囲でボランティアをする。この素

今という時代

うちの寺では寺としての活動や生活をしていく上でどうしても、もう一つ収入源というか仕事が必要だ。今でも父が住職としての法務をしながら、別の仕事を兼任してくれている。

おかげ様で私は今まで法務を手伝う傍ら、好きな仕事、やりたい事をさせてもらっていた。恥ずかしいが親の脛をかじり倒し、生きてきた。(今でもそうだが...)

大学を出てから特殊な業界にいたが、結婚を機に新しい仕事をさせてもらおうと決意した。

工作上、私がどうしても譲れない点としては「寺の法務」というのがあり、基本的に土日祝は法務に充てたいので決まった休みが欲しいなど希望を伝えた。各会社には我が儘だと思われる事を伝えたとと思う。会社としても一途に会社に貢献できる人材が欲しいのが本音だと思う。

ある会社では出社前日に急に葬儀が入り、クビになった事もあった。本当に申し訳ないことをしたと思う反面、中途半端な気持ちではやっていけないと教えていただいた事をとても感謝している。現在はある企業で働かせていただき、落ち着いている。驚くほど融通を利かせていただき、急な法務が入っても皆さんが代わりに協力して出勤して下さったりと、有り難い環境に身を置かせていただいている。皆さんに迷惑をかけている分、で

きる限りの埋め合わせをさせていただこうとしている。

そして私を支え、理解し、協力してくれる家族や門徒様がいてこそ、楽しく働ける事に感謝している。

今、お寺だけで生活をされている方がどれだけいらっしゃるかはわからないが、私を知る限り、生活の為に何らかのお仕事を兼業しながら生活されている方が多いようだ。

しかも今までとは違い、長く勤めている職場であつても休みが取り辛くなっているという声をよく聞く。私の父も例外ではない。雇用制度や職場関係の変化もあるだろうし、社会が変わってきている部分もあると思う。兼務されている寺の方々には今後の為に色々ご教授いただきたいと思う。

今の私は寺を維持するという事自体に精一杯になつて、何の為に寺が必要かという根本的な問題

を忘れがちになつてしまっている気がする。

私が寺にここまで固執する理由は、門徒様の希望になるべく添いたいという思いがある事(門徒様が減ってしまう事を避けたいので)、家族を守りたい事、そして「代々受け継いで下さった先達の思いを引き継いでほしい」、「声明を通して伝わるものがあると感じるので、念仏の道場としてこれからも寺を発展させていってほしい」という願いをお伝え下さった方々がいたからだ。

私にとって生きがいになるお言葉だと感じたと同時に、今の私の中で寺が必要な理由はこのお言葉の中に示されているように思う。

この思いを大切にしつつ、息苦しくならないように今後も楽しみながら寺と仕事を両立させていこうと考えている。

(編集委員 徳田 潤子)

出 会 い の 窓

私は、テレビよりも断然ラジオが好き。

さぼりぎみの寺事？家事？のお供はラジオ。

NHK-FMのような音楽も、決まったものは聴きますが、たいていはAM。

スポンサーがありきのメディアでは、発言など諸々規制があるのですが、テレビよりもラジオの方が規制は少ないのでしょうか。パーソナリティーのお人柄が出ていておもしろい。

土曜日のお昼11時半～13時という時間帯で、車での移動中では聴けないことが多かったのですが、予約録音をおぼえてからは、ソワソワせず安心して用事をすませられるようになりました♪

(編集委員・東 美恵子)

『それゆけ！メッセンジャー』(MBSラジオ179Hz)

京都教区教化レポート

【青少年研修小委員会】

青少年研修小委員会では、主に三つの事業を行っております。

- ① 児童大会
 - ② お寺の子ども会サポート研修会(三回)
 - ③ お寺の子ども会サポート(第三期)
- 児童大会は毎年夏に行っており、本年度は昨夏第五十八回目を本山と比叡山を会場に行いました。

また、小委員会ではお寺を子ども達に開いていただきたいと、お寺の子ども会を推進しております。その取り組みとして、子ども会サポートと称して、子ども会の立ち上げから始まり、一年間子ども会のサポートを行っております。一期二年三ヶ寺を対象としており、少ないようですが、確実な子ども会の立ち上げを目的としておりますので、一番効率の良い方法と考えております。

加えて、教区宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年お待ち受け事業の三本柱の一つで青少年を対象とした記念事業として、「誕生児初参り式サポート」をいよいよ事業化いたしました。一期一年三ヶ寺を対象にサポートします。お寺と子どもとの接点、親も子も自然な形でお寺と関係が持てるよう推進していきたいと考えております。

(青少年研修小委員会主査 三品 正親)

事務連絡

《敬弔》

ご生前のご功勞を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

近江第一組 萬福寺前坊守 山本 三千枝
二〇一六年二月四日 八十七歳
〔届出順〕

〔敬称略〕

《「福島の子どもたち一時避難受け入れの会」へのご支援・ご協力をお願い》

二〇一一年三月に東日本大震災、福島第一原発事故が起きて、五年が経ちました。京都教区では五年目となる「福島の子どもたち一時避難受け入れ(保養)」事業を行います。

福島からの子どもたちと保護者の日常のストレスからの解放。そして私たちが忘れてはならない事を学ぶ場として、この保養事業があります。

つきましては、皆様からのご支援・ご協力をお願いいたします。

〔銀行名〕 ゆうちょ銀行

〔預金種目〕 当座預金

〔口座名〕

真宗大谷派京都教区福島の子どもたち一時避難受け入れの会

〔口座預金番号〕

00940-7-273385

《東本願寺出版刊行物のお知らせ》

『お彼岸(2016年春版)』
お彼岸を迎える大切さをあらためて考える冊子。

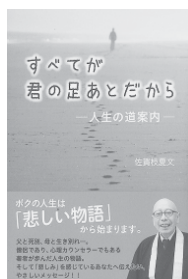


価格 六四円

『すべてが君の足あとだから』

—人生の道案内—

悩めるすべての人に向けた、やさしいメッセージ集と生き方のヒント。

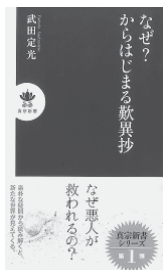


著者 佐賀枝夏文
価格 八一〇円

『なぜ?からはじまる歎異抄』

(真宗新書シリーズ第1弾)

「この世で救われない人は一人もない」と親鸞に言わしめた教えが書き表された『歎異抄』の願いを、「なぜ?」という素朴な視点に立ち、丁寧に書き表した一冊。



著者 武田定光
価格 八四二円

■京都教区教化テーマ■

今いのちがあなたを生きている

命に感謝 いのちの声 感謝すか いのちのめぐり

◆教区事業予定

3月 1日(火)	13:30～16:30	出版小委員会	会場◇教区会館3F	研修室
3月 2日(水)	13:30～	教区同和協議会運営委員会	会場◇教区会館2F	大講堂
3月 7日(月)	13:30～16:30	『教区だより』公開講演会	会場◇教区会館2F	大講堂
3月 9日(水)	17:00～21:00	お寺の子ども会研修会	会場◇教区会館2F	大講堂
3月12日(土)	14:00～21:00	拾学舎(教学・声明作法研修会)	会場◇教区会館2F	大講堂
3月23日(水)	13:30～	第14期伝道研修会	会場◇教区会館2F	大講堂
3月24日(木)	～16:00	〃	会場◇教区会館2F	大講堂
3月29日(火)	13:30～	得度学習会	会場◇教区会館2F	大講堂
3月30日(水)	～11:30	〃	会場◇教区会館2F	大講堂

◆地区・団体事業予定

3月 3日(木)	18:30～20:30	仏教青年会	会場◇教区会館3F	会議室
3月 8日(火)	10:00～11:30	大谷保育協会京都支部卒園児合同参拝	会場◇真宗本廟	
3月 9日(水)	9:00～16:00	坊守会真宗基礎講座	会場◇教区会館2F	大講堂
	18:00～20:00	声明会	会場◇教区会館3F	研修室
3月10日(木)	15:30～18:00	大谷保育協会京都支部	会場◇教区会館3F	研修室
3月11日(金)	13:30～17:00	教区合唱団	会場◇教区会館2F	大講堂
3月16日(水)	13:00～17:00	靖国問題学習会	会場◇教区会館3F	会議室
	16:00～18:00	准堂衆会	会場◇教区会館2F	大講堂
3月23日(水)	18:00～20:00	声明会	会場◇教区会館3F	研修室
3月24日(木)	15:00～	教区児童教化連盟	会場◇教区会館3F	研修室
3月25日(金)	10:00～15:00	春の子ども本山参り	会場◇真宗本廟	

連載の終了と新連載のお知らせ

二年間に亘った連載「親鸞—時代を生きる—」が最終回を迎えました。執筆いただいた平雅行先生には、詳細な資料に基づいた平安・鎌倉の時代考察を背景として、私の持っていた宗祖親鸞の姿を改めて問われたように感じています。誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。3月7日の公開講演会は、委員一同楽しみにしております。有縁の方々のご参会もよろしくお願い申し上げます。

また、来月号より新連載「大乘仏教—釈尊觀の深化—」として、大谷大学教授の織田顕祐先生にご執筆いただきます。お楽しみに。
(出版小委員会主査 藤川 秀行)

「教区だより」第329号

真宗大谷派 京都教区 教化広報誌

発行日 2016(平成28)年3月1日

発行人 磯野恵昭(真宗大谷派京都教務所長)

発行所 真宗大谷派京都教務所

〒600-8164

京都市下京区花屋町通烏丸西入

Tel: 075(351) 5260

Fax: 075(351) 5256

メールアドレス: kyoto@higashihonganji.or.jp

ホームページ: <http://www.k-kyoku.net/>

印刷所 (有) 寶印刷工業所

the editor's note

編集後記

世間一般では年度末でしょうか。教区だよりでは平先生の連載が最後になりました。途中、えっ!と思うこともありながら、先生にとっての親鸞聖人は過去の人でないのだと感じ、最後には読んだ後に心がふっとあたたかくなるような感覚がありました。ありがとうございました。

4月号は誌面がリニューアル。デザイン会社も入らず、文字ひとつ挿絵ひとつまで岡委員渾身の作です。

どうぞお楽しみに。

(編集委員 東 美恵子)